

科目番号	科目名	配当年次	授業形態	単位	担当教員
H307	労働経済学	2年	講義	2	本年度不開講
授業概要 学生諸君が将来の職業選択をするに当たり、労働市場を理解しておくことは不可欠であるばかりでなく、労働は生産要素として所得の最大の源泉であり、経済にとってもきわめて重要であるため、経済の一分野としての理解が求められる。こうした認識に基づいて、経済学の基礎知識を前提に、応用経済学の重要な一分野としての労働経済学の基礎を学ぶ。					
到達目標(学習の成果) <ul style="list-style-type: none"> ・社会人として活躍するための基本である労働について理解し、基本的・普遍的知識を持つ。 ・働くにあたって、様々な情報の収集・整理を行うことができるようになる。 ・労働についての諸課題を分析・比較検討し、対応策を考えることができる能力を備えることができる。 					
授業計画					
回	表題	学修内容			
1	労働経済学とはどのような学問か	労働市場の特性、労働に関する基本的諸概念を理解する。			
2	労働市場をはかる	人口、労働力調査、毎月勤労統計調査など、労働市場に関する基礎的な調査の概要と最近の動きを理解する。			
3	労働供給	家計のミクロ的な分析を用いて労働供給を分析する。			
4	労働需要	企業のミクロ的な分析を用いて労働需要を分析する。			
5	失業	労働市場における需給、雇用調整、失業のタイプ、失業対策について理解する。			
6	労働時間	労働投入量としての労働時間、労働時間短縮、時間外労働。			
7	賃金	賃金のタイプ、男女間、職種、学歴等の賃金格差の諸問題。			
8	労使関係	団体交渉、労働組合、春闘。			
9	労働市場における情報の役割	情報探索コスト、内部労働市場。			
10	長期雇用と短期雇用	日本的雇用システムと言われる終身雇用制と年功序列賃金について考える。			
11	労働特性と雇用慣行	採用、教育訓練、昇進、付加給付、定年退職、ライフサイクル。			
12	若年労働者の諸問題	就職氷河期、フリーター、非正規雇用。			
13	少子高齢化と雇用	少子高齢化をめぐる諸問題、高齢者雇用。			
14	経済変動とマクロ政策	マクロ経済学における労働に関する見方。			
15	今日の労働市場をめぐる論点整理	国際化など、最近の労働市場をめぐる問題点の総括。			

準備学修(授業外の自己学修)

授業中に示された統計などをよく分析し、自分の頭で考えること。

成績評価の方法・基準(%表記)

期末試験 100%。ただし、欠席や授業態度などにより減点する。

期末試験は、様々な情報の収集・整理を行い、新たな情報として想像する能力を備えているかどうかを判断するために、授業の内容から一つのテーマを選択し、それについてのまとめを行う形式で行う。その判断基準等については最初の授業で述べるので、必ず出席すること。

教科書

教科書は用いないが、参考書のリストを配布するので、いずれかの参考書を手元において参考にとるとよい。

参考書等

厚生労働省『労働白書』各年版

樋口美雄『労働経済学』1996年 東洋経済新報社 2621円

清家篤『労働経済』2002年 東洋経済新報社 1800円

中馬宏之『労働経済学』1995年 サイエンス者 2800円

太田聡一・橘木俊詔『労働経済学入門』2004年 有斐閣 1700円

『活用労働統計』

『労働力調査報告』

古田裕繁『わかりやすい労働統計の見方・使い方』2010年経営書院 4600円など。

履修上の注意・学修支援

内容を理解するためには、統計に基づいて分析をすることが必要である。このため、自分で統計に当たり、その意味を考えることが求められる。